

特定非営利活動法人 しがNPOセンター  
2021年度 事業報告書

# 2021年度事業報告書

## 概要（P1）

### 1 市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業（P2）

- (1) 情報提供
- (2) 相談・コンサルティング
- (3) まちづくりサロン
- (4) 講演会
- (5) CEO 会議 孤独孤立タスク会議への参加
- (6) 明治ホールディングスお菓子寄贈 団体推薦

### 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業（P5）

- (1) 情報提供
- (2) 明石市校区まちづくり組織研修会
- (3) 地域情報化推進支援

### 3 協働推進（P6）

- (1) 行政との協働
- (2) 企業・団体との協働
- (3) 第6回都道府県 主要都市におけるNPOとの協働環境に関する調査
- (4) 役員・職員が関わる委員会等

### 4 調査研究事業・政策提案（P17）

- (1) コラム発信

### 5 災害ボランティアコーディネート事業（P18）

- (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営
- (2) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度
- (3) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会
- (4) JVOADが実施した「企業の被災者支援への参加に関する調査プロジェクト」への協力
- (5) 連合滋賀災害ボランティアチーム研修
- (6) レイカディア大学 講義

## 6 ネットワークの構築 (P22)

- (1) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度
- (2) 中間支援センター意見交換会への参加

## 7 会議等の開催 (P23)

- (1) 総会
- (2) 理事会

## 概 要

2021 年度も、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）が前年に引き続き流行したことで、少なからず活動に影響があった。中止せざるを得ない事業やオンラインへの切り替えで実施した事業など、滋賀県内でのコロナの感染状況を踏まえた対応だった。

これまで大きな柱として取り組んできた人材育成に関しては、本年度も新たな展開をすることができず、課題となった。

市民活動支援のベーシックな活動である相談事業は重要な位置付けとなっており、設立当初から多岐にわたる内容の相談に応じてきた。前年度からコロナ対応策として始めたオンラインでの有料相談に加え、助成金事務局としての相談、オリエンテーション、ヒアリングもオンライン対応を取り入れたことで、スムーズに運営できた面もあった。

草津市の協働のまちづくり推進支援委託業務では、総合交流センター（キラリエ草津）がオープンして、協働ひろばの運営のアドバイスを行うとともに、ラウンドテーブルの実施などの新たな展開があった。

企業・団体との協働関係では、引き続き、平和堂財団の環境保全助成金事業「夏原グラント」、生活協同組合コープしがとの「できるコトづくり制度」に取り組んだ。大和リース（株）との協働事業である「まちづくりスポット大津」は、NPO法人まちづくりスポット大津が主体的に運営を行うことになり、しがNPOセンターはアドバイザーとしてサポートした。

「夏原グラント」は、2012 年度から助成が始まり 2021 年度に 10 周年となった。2021 年度までに助成を受けたのは延べ 550 団体、助成金総額は 156,426,000 円となっており、滋賀県・京都府の環境保全等の市民活動団体の活動を支える役割を果たしている。民間の助成金規模としては滋賀県では突出している。さらなる制度の PR に加えて、この助成金そのものの価値を伝えることが必要となっている。助成金事務局として講座や相談会、交流会、個別コンサルティング、訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。コロナの影響での事業変更や休止を余儀なくされた団体への対応・支援、オンラインを活用した講座や相談会の実施、団体の組織運営サポートなどにも積極的に取り組んだ。

「できるコトづくり制度」はコープしがが主宰し、さまざまな「想い」や「願い」を持った個人や団体が新たな一歩を踏み出すための学習の場の提供と、それらを実現させるために必要な資金の助成の二本立てとなっている。2021 年度分の審査会はプレゼンテーションを実施したが、コロナの影響で前年度に引き続き審査委員はオンラインでの参加となった。講座はオンラインと会場での開催、助成金説明会・相談会もオンライン併用で行うとともに、コロナの影響での事業の休止や変更にかかるサポートをした。団体の訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。

「災害ボランティアコーディネート事業」は、7 月の熱海での土石流災害、8 月の集中豪雨、3 月の宮城・福島地震などがあったが、特段の対応ができなかった。しが NPO センターが事務局を担っている「災害支援市民ネットワークしが」の研究会は、近畿ろうきんの NPO パートナーシップ制度を活用して 4 回実施した。

# 1 市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業

## (1) 情報提供

ホームページ、フェイスブックなどで、NPO 支援のための情報や NPO コラムを発信した。  
会員に向けては、メールの一斉送信などで情報提供を行った。

## (2) 相談・コンサルティング

### ① 相談業務

相談業務では同じ団体から連続して 5 回の有料相談があり、法人化から組織運営に向けてのアドバイスをを行った。連続しての相談対応はしっかりと団体の課題に寄り添ってアドバイスすることができ、望ましい形であると感じた。ただ有料であるため、連続して相談することのハードルはかなり高く、実際にはあまりないケースではある。連続して相談対応することの効果伝えることも考えていきたい。

委託業務内での相談では、2020 年度はコロナ対応についてが多かったが、それが少しずつ減少してきている。それぞれの団体内で、どのように対応するかを経験が積み重ねられてきているのではないかと考えられる。

#### 有料相談

1 時間当たり 3,000 円（税別、スタッフが出向く場合は交通費別途）

相談件数 6 件

- ・ 組織の立ち上げについて
- ・ 法人化について
- ・ 法人化後の組織運営について

#### 委託業務等内での相談対応他

相談件数 96 件

- ・ 助成金の応募について
- ・ コロナ禍における活動について
- ・ 法人の解散について

## (3) まちづくりサロン

### 「新書 de 読書会」

2021 年度も毎月第 3 月曜日（祝日の場合は前後で設定）で定例開催した。2016 年度から始めて、2022 年 3 月の開催で 65 回を数えた。連続して定期的に開催することで認知度があがり、参加者も安定的に増加してきている。メンバーの顔触れが揃ってきたことで、かえって新しい参加者がアウェー的にならないよう心掛けていく必要がある。参加者から、自分では決して選ばない本が読めるよい機会となっているとの声もあり、今後も多様なテーマや多彩な話題提供者による読書会を展開していきたい。

①2021 年 4 月 19 日（月）19：00～20：30

課題本：民主主義とは何か 著者：宇野重規 出版社：講談社現代新書

②2021 年 5 月 17 日（月）19：00～20：30

課題本：地域衰退 著者：宮崎雅人 出版：岩波新書

- ③2021年6月21日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 希望のつくり方 著者: 玄田有史 出版: 岩波新書
- ④2021年7月19日(月) 19:00~20:30  
 課題本: アフター・リベラル~怒りと憎悪の政治 著者: 吉田徹 出版: 講談社現代新書
- ⑤2021年8月23日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 定年後の作法 著者: 林望 出版: ちくま書房
- ⑥2021年9月27日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 獣害列島~増えすぎた日本の野生動物たち 著者: 田中淳夫 出版: イースト新書
- ⑦2021年10月18日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 私たちはどんな世界を生きているか 著者: 西谷修 出版: 講談社現代新書
- ⑧2021年11月15日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 東京復興ならず~文化首都構想の挫折と戦後日本 著者: 吉見俊哉  
 出版: 中公新書
- ⑨2021年12月20日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 宗教は現代人を救えるか 著者: 佐々木潤・小原克博 出版: 平凡社新書
- ⑩2022年1月17日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 自壊する官邸~『一強』の落とし穴 編者: 朝日新聞取材班 出版: 朝日新書
- ⑪2022年2月21日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 心とからだの倫理学 著者: 佐藤岳詩 出版: ちくまプリマ―新書  
 話題提供者: 大西正奏
- ⑫2022年3月14日(月) 19:00~20:30  
 課題本: 文学部の逆襲~人文知が紡ぎ出す人類の「大きな物語」 著者: 波頭亮  
 出版: ちくま新書

#### (4) 講演会

##### ① 「NPO にとっての休眠預金」

日時: 2021年5月22日(土) 15:00~17:00

講師: 実吉威 NPO 法人市民活動センター神戸 理事・事務局長、  
 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団 代表理事

参加者: 会場6名・オンライン4名

総会終了後、休眠預金をテーマに講演会を開催した。コロナ感染拡大防止のために、講師はオンラインでの講演とし、参加者は会場とオンラインの併用とした。

休眠預金を民間公益活動促進に活用しようとする休眠預金活用法がスタートしたが、市民活動団体からは活動を支える原資として期待が大きい反面、助成を受けた場合の重い事務負担や過剰な順守事項など、運用についての課題も指摘されている。休眠預金制度は市民活動にとって役に立つのか、制度を使いやすくするためにはどうすればよいのかなど、NPO 法人市民活動センター神戸理事・事務局長、公益財団法人ひょうごコミュニティ財団代表理事の実吉威さんから「NPO にとっての休眠預金」をテーマにお話いただいた。制度構築の経緯や現場の声などを踏まえた問題点も含め、今後考えていくべき課題など、非常に示唆に富むものだった。

市民活動にとって有益な内容であったが、総会の時期は、他団体も総会開催日や準備のため時間がとりにくく講演に参加したいが難しいなどの理由もあって、残念ながら参加者が少なく、開催時期や広報などにも課題が残った。

## ②「社会的にゃんぱくと評価を学ぼう！～NPOの価値を再認識するための思考トレーニング

日時：2021年10月23日（土）13：30～16：30

講師：松原明 NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 元代表

参加者：19名

休眠預金の活用をはじめとして、NPOが関わる社会的な仕組みの中で、社会的インパクト評価が評価基準として取り上げられることも多くなってきた。しかし、この方法で計れないNPOの活動は意味がないのかと誤解が生まれたり、評価の数値の上げやすい活動だけが優先されてしまうのかなどの疑問も出ている。社会的インパクト評価に対峙し、NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会元代表の松原明さんが提唱されている「社会的にゃんぱくと評価」について学ぶ公開講演会を開催した。現在NPOが直面している課題、NPOのマネジメントモデルなどの解説は、それぞれが日頃の活動で感じていることが整理され、後半の「にゃんぱくと評価」では新たな視点からのマネジメントや評価方法についての解説が、参加者にとって新鮮だったようだ。アンケート結果では、「今までモヤモヤしていたことがスッキリ整理された」「『協力する』ということをしっかり考えていきたい」などの声があり、これからのNPOのあり方を考える上でのヒントをもらえる講演だった。

## (5) CEO会議 孤独孤立タスク会議への参加

2021年6月28日（月）・29日（火）の両日、日本NPOセンター主催のCEO会議（民間NPO支援センター・将来を展望する会）がオンラインで開催された。この会議では、「孤独・孤立対策」についての国の動きなどが紹介され、NPOセクターとしてどう取り組むべきかなどが話し合わせ、孤独・孤立タスク会議を立ち上げることとなった。7月から8月にかけて4回の会議が開催され、国への要望書が取りまとめられた。8月19日に神戸で行われたフォーラム（出席者限定）を受け、同日夕方から緊急報告会が行われ参加した。

その後、孤独・孤立担当大臣との意見交換が行われている。

## (6) 明治ホールディングスお菓子寄贈 団体推薦

明治ホールディングスおよび同株主より社会貢献活動の一環として、明治グループの製品（お菓子）の寄贈が全国約300か所で行われるに当たり、日本NPOセンターが事務局を担っている。日本NPOセンターから各都道府県の間支援センターへ、お菓子寄贈にふさわしい対象団体の推薦依頼があり、それに対応した。対象団体は「(1) 障がいのある子どもを対象とした活動を行っている団体」「(2) 自然災害の被災地支援活動をしている団体（子どもを含む地域住民支援）」「(3) 自然災害の広域避難者を支援している団体（子どもを含む地域住民支援）」「(4) 東日本大震災の被災地支援、広域避難者支援をしている団体（子どもを含む地域住民支援）」となっており、滋賀県から4団体を推薦した。

## 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

### (1) 情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューをとりまとめ、今後の相談対応時のコンテンツとして使えるように整理した。必要に応じて情報が提供できる体制にある。

### (2) 明石市校区まちづくり組織研修会

明石市コミュニティ・生涯学習課と明石コミュニティ創造協会より依頼があり、「まちづくり協議会のリクスマネジメント」についての講演を行った。地域自治組織が抱えるであろう「リクスマネジメント」の要因や背景を話した後、草津市コミュニティ事業団の職員が草津市におけるまちづくり協議会のリスク事例と対応について話した。明石市校区まちづくり組織でも重なる部分があり、その後のディスカッションでは各組織からの事例がいくつも出された。

### (3) 地域情報化推進支援

コロナ禍の中、滋賀県地域情報化市民会議が主催する「コロナに負けない地域×ICT 事例コンテスト」の審査員と「滋賀コミュニティテックフォーラム 2022」での審査時の報告を担った。地域・企業を含め 15 団体のエントリーがあり、優秀賞 10 団体を選んだ。エントリー時に県内の市民活動団体の紹介を行ったほか、Zoom で全団体へのヒアリングを行った。情報化が進むなかで、さまざまな情報技術が駆使され、これからの市民活動のめざす方向性がかいま見えた。



### 3 協働推進

#### (1) 行政との協働

##### 草津市協働のまちづくり推進支援業務（受託事業）

###### ① 協働推進サポート業務

- ・協働のまちづくりを推進するために、まちづくり協議会および市民公益活動団体の動向を見据え、協働事業の展開および市民公益活動のさらなる環境整備に向け、専門的な助言を行った。
- ・市民参加・協働のまちづくり推進評価委員会運営への助言、および協働事業調査や協働評価シートの見直しなど、協働の進め方についての展開手法の提案やサポート支援を行った。
- ・市民公益活動団体やまちづくりに関する諸機関からの相談対応を行った。

###### ② ラウンドテーブルの企画運営及び協働事業創出に向けてのコーディネート業務

- ・「ラウンドテーブルくさつ」を企画運営し、多くの市民公益活動団体の参加を促すとともに、協働事業創出への道筋をつけた。
- ・ラウンドテーブルの企画・運営を行った。（5回）
- ・ラウンドテーブル運営会（世話人会）を設置し開催した。（5回）
- ・ラウンドテーブルの運営実施及び結果の報告としてニュースを作成した。（4回）

###### ③ 「協働ひろば」の運営サポート

- ・市民総合交流センター内の「協働ひろば」開設にあたって、コミュニティ事業団と協力しながら環境整備を行い、多くの団体に利用してもらえるようにした。
- ・「協働ひろば」の位置付け、意義及び役割を明確化するサポートを行った。
- ・「協働ひろば」の周知、相談などの対応を行った。（パンフレットの発行・相談対応）

#### (2) 企業・団体との協働

##### ① 平和堂財団 環境保全活動助成事業「夏原グラント」（受託事業）

コロナ感染により事務局運営や団体の活動に大きな影響を受けた昨年度と比べると、事前に複数の案を持ちながら進めることによって、一部実施できないことがあったものの、ほぼ予定通りの事業を実施することができた。その中で、交流会は6会場で予定していたが、感染拡大により2会場での開催後、4会場は中止となった。実施した2会場での雰囲気がとてもよく、参加者の満足度も高かったことから残念な結果となったが、交流会の意義が確認でき、次年度へ繋ぐことができた。

2021年度は夏原グラントが始まってから10年目となり、今までの成果と課題を踏まえながら、今後に向けて改善策を探ることとなった。そのため、団体からのアンケートや選考委員からの意見聴取を踏まえ、平和堂財団との検討を重ねた。この結果を踏まえて2022年度の事業に活かしていくこととなる。

夏原グラントは平和堂財団の主要事業でこれからも継続される方向であることから、当センターの今後を鑑み、業務を他団体へ移行することを検討し、平和堂財団からも承諾を得た。NPO法人まちづくりスポット大津へ業務を移管する方向で業務の進捗状況を共有しながら具体的な作業についても共同で行うなどの準備を進めた。

訪問による活動レポートの作成とホームページサイトでの情報発信、報告書の作成などについては従来通り実施した。

i 助成団体

・一般助成1年目	18団体	助成金総額	6,710,000円
・一般助成2年目	11団体	助成金総額	4,027,000円
・一般助成3年目	8団体	助成金総額	3,280,000円
・ステップアップ助成	3団体	助成金総額	1,500,000円
・ファーストステップ助成1年目	7団体	助成金総額	700,000円
・ファーストステップ助成2年目	10団体	助成金総額	9300,000円
	計	60団体	17,147,000円

2021年度助成金対象団体については2020年度中に選考委員会を実施している。

選考委員会は一般1年目1次選考のみ非公開の書類選考で2次選考に進む団体を決定、一般1年目2次・一般2年目はプレゼンテーションと選考委員会、一般3年目は個別ヒアリングを行い取りまとめた結果を選考委員会で報告、ステップアップ助成1年目は書類審査、2年目は選考委員によるヒアリングで採否を決定した。プレゼンテーションは公開ではなく、関係者のみの実施であった。ファーストステップ助成は1年目・2年目ともに、書類確認の上、採否を決定した。2021年度はステップアップ1年目が2団体採択された。

2021年度の助成金対象団体数と助成額は以下のとおりである。

<一般1年目>

団体名	事業名	助成金額
森のようちえん どんご園	森のがっこう 2021	400,000
沖島里山保全の会	ニホンミツバチの蜜源の谷づくり事業	400,000
下阪本子どもコミュニティー	下阪本クリーン作戦&シジミ放流	400,000
西山自然保護ネットワーク	小塩山カタクリ保護地へのイノシシ侵入防止対策	500,000
加茂女	里山からワサビ畑の復活をめざす	400,000
自然観察指導員京都連絡会	特定外来種のオオハンゴンソウ駆除で美しい花背の自然と生態系を守る	500,000
レイカディアえにしの会	芦浦観音寺竹林整備プロジェクト	200,000
オランダ堰堤および周辺の環境を守る会	みつばち花いっぱいプロジェクト	400,000
西の湖あそび隊	西の湖おはなしあそび 西の湖を感じる展覧会	400,000
国際ボランティア学生協会	大学生の熱意で琵琶湖や鴨川を侵略的外来種から守ろう	400,000
コミュニティネットワーク高島	くつきの森の炭窯を活用した炭焼き人材育成と炭原木のドングリの森育成事業	130,000
志賀郷ゴキゲン化計画	小さな谷の小さな暮らしー自然とつながり生きる力を育むワークショップ	400,000
地域環境デザイン研究所 ecotone	水道直結型マイボトル専用仮設給水機の設置を通じた河川ごみ減量啓発事業	500,000
比良雪稜会	比良山系の清掃登山(クリーンハイク)及び飲み水水質調査と放射線測定	80,000
こにゃん木の駅プロジェクト準備委員会	湖南省産バイオマス燃料製造プロジェクト	500,000

TANAKAMI こども環境クラブ	山を守る ごみ拾い調査とその解決法を探る	400,000
宇治きこりの会	市民が楽しめる 豊かで元気な 森育て をすすめよう！	400,000
チームむべなるかな	琵琶湖水鳥観察会とむべなるかな里山探索会	300,000

<一般2年目>

団体名	事業名	助成金額
滋賀県レイカディア大学同窓会大津支部	大津市内小学校の緑化・美化活動	300,000
桂坂野鳥遊園子ども自然観察会	子ども自然観察会	160,000
明日の走井を考える会	みんなで創る走井（はしり）の里	450,000
志津南『芝桜プロジェクト』	草津市志津南地区内調整池等の雑草地整備	200,000
上宮津・杉山エコガイドの会	道普請ツアーと東屋づくり	480,000
横山はらっぱ倶楽部	横山森林公園の活性化	300,000
八島里山づくり委員会	八島ふれあいの森づくり（世代をつなぐ里山の保全管理活動）	400,000
フィールドソサイエティー	広げよう！森林環境学習活動	500,000
亀岡人と自然のネットワーク	希少種の保全 ヤマトサンショウウオの生息環境保全	487,000
棚田・里山・古代米・鮎プロジェクト	棚田・里山・古代米・鮎プロジェクト	450,000
美土里ファーム・コミュニティファーム 実行委員会	京都・滋賀でのコミュニティファームの設立	300,000

<一般3年目>

団体名	事業名	助成金額
八幡たけくらぶ	放置竹林整備事業	500,000
中世木ビジョン委員会	中世木の里山・棚田を守るプロジェクト	400,000
徳山環境保全会	彼岸花の復活による堤防環境保全と地域づくり	400,000
滝区ササユリの里づくり委員会	滝区ササユリの咲きほこる里づくり	400,000
森の風音	都市公園で育むナチュラル・ガーデンとナチュラル・キンダー ガーデン	380,000
滋賀のオオサンショウウオを守る会	滋賀県のオオサンショウウオに関する調査・研究	500,000
秀次家臣団屋敷跡竹林を守る会	八幡山城 豊臣秀次家臣団屋敷跡の竹林整備と市民が親し める環境づくり	300,000
京都桑田村	2021年度桑木クヌギ植え付け事業	400,000

<ステップアップ助成>

	団体名	事業名	助成金額
1年目	志津南環境美化ボランティアの会	緑の手入れを通じての“高齢者支援対策”と“空き家対策”	500,000
1年目	こそだてママnet☆	鹿背山おやこの森のkichi	500,000
2年目	放鳥's	野性傷病鳥獣の救護追跡事業	500,000

<ファーストステップ1年目>

団体名	事業名	助成金額
海浜植物守りたい	絶滅危惧種・希少種に指定されている野生植物の保護・保全活動	100,000
まるやまの自然と文化を守る会	まるやまの自然と文化を次代につなぐ	100,000
岩脇まちづくり委員会	岩脇自治会内の環境保全及び保有施設を活用した事業の展開	100,000
朽木野鳥を守る会	朽木野鳥を守る会	100,000
天引区の活性化と未来を考える会	希少生物をはぐくむ石積水路の補修と放置柿の採取による獣害防止と景観保護 事業	100,000
えくぼ自然クラブ	野外でとことん遊ぶ小学生倶楽部 ～農業体験、火起こしを通じて～	100,000
東近江さとやま Nannies	東近江里山保育推進と里山保全学習事業	100,000

<ファーストステップ2年目>

団体名	事業名	助成金額
吉田山の里山を再生する会	吉田山の自然環境を保全し、人々が集い楽しめる里山に再生する事業	100,000
彦根ブナの会	彦根ブナの会 植樹活動	100,000
西の湖自然楽校	西の湖自然楽校	100,000
林業女子会@京都（花背支部）	花背の里山自然観察会と里地調査からの生物多様性の魅力発信	100,000
未来生物学研究所	滋賀県の河川・湖沼等の環境保全及び環境問題の解決を目的とした最新科学技術の活用	100,000
せせらぎの郷	大麦ストローを使おう、「脱プラスチック」環境問題を考えるアイテムとして	100,000
京都南丹おいもの里	2020年度甘藷試験栽培計画事業	100,000
Agri Departure	農家お手伝い事業	100,000
フードバンクびわ湖	“食品ロス地域資源へ もったいないを「笑顔」と「絆」に”	100,000
生き物ふれあい隊	生き物ふれあい隊活動	30,000

ii 贈呈式

2020年度は中止となったが、2021年度は出席者を1団体1人に限定するとともに、贈呈式終了後の交流パーティを開催しない形で実施した。一般・ステップアップ助成団体を対象に、平和堂財団の理事より目録が贈呈され、その後は2020年度の活動の中から3団体による活動報告を行った。

終了後は、選考委員との昼食交流を開催した。

2021年4月18日（日）10:00～12:00

クサツエストピアホテル 瑞祥の間

iii 市民環境講座

環境保全活動を進めていくための専門的な知識や組織運営について学ぶ場として市民環境講座を開催した。選考委員に講師を依頼した。一般1年目とファーストステップ1年目の採択団体は、出席を必須とした。

会議室内が密にならないよう、団体からの参加者を2名以内と限定して開催した。

第1回 2021年6月28日(土) 13:30~15:30 参加者:55名  
草津市立市民総合講習センター502  
「地球環境へのまなざしを持つ地域に根ざした環境保全活動」  
講師:仁連孝昭さん

第2回 2021年7月18日(日) 13:30~16:30 参加者:50名  
滋賀県立県民交流センター305  
「活動を元気に続けていくためのポイント」  
講師:脇田健一さん

iv ファーストステップ1年目団体オリエンテーション

ファーストステップ団体は贈呈式に参加しないことから、夏原グラントの全体スケジュールや活動開始に当たっての注意点、事務手続きの方法などについて伝える場として開催した。短時間の開催であるということもあり、オンラインで実施した。オリエンテーションが実施されないと、お互いの顔を知らずに進めることになってしまうので、重要な機会となっている。

2021年4月27日(火) 19:00~19:30

v 交流会

全団体を対象に交流会を開催した。6会場を準備し、日時・場所から希望を聞き参加してもらうこととなった。交流の機会がほしいとのことで複数会場の参加を希望する団体もあった。6会場での開催を予定していたがコロナ感染が拡大したため、2会場で開催した後、残りの4会場を急遽中止とした。

会場ごとに選考委員・平和堂財団からも参加してもらい、団体との交流を深めていただく場ともなった。参加できた団体からは、同じ地域で活動している団体を知ることができた、一緒に活動できることがあるのではないかと思えたなどの声があり、交流会の目的を達成できたと感じた。中止を連絡したところ理解はされたものの、今後の開催を希望する声も多かった。どのような開催方法または時期がふさわしいかを考えることが必要である。

2021年8月5日(木) 13:30~16:00 大津・滋賀県立県民交流センター305

2021年8月7日(土) 13:30~16:00 城陽・文化パルク城陽第4会議室

以下中止となった会場

2021年8月17日(火) 草津・草津市立市民総合交流センター401

2021年8月28日(土) 米原・滋賀県文化産業交流会館 第2会議室

2021年8月31日(火) 亀岡・ガレリアかめおか 研修室

2021年9月4日(土) 京都・YIC 京都工科自動車大学校 285

vi ファーストステップ団体ヒアリング

ファーストステップ助成では、次年度または次々年度に一般助成へ応募することを必須としている。4月からの活動状況を確認しながら、次年度どのように対応していくかについて個別のヒアリングを、1年目団体と2年目団体に分けて、全団体対象に実施した。会場とオンラインのどちらかを選んで参加する方法を採用したところ、オンラインは遠方の団体からは参加しやすいとの評価が得られた。コロナ感染防止のために始まったオンラインではあるが、そうではなくとも往復時間がかかる場合などにはよい手段として利用してもらえることがわかった。

1年目団体:2021年11月13日(土) 10:00~16:30

草津市立市民総合交流センター 504・オンライン

2年目団体：2021年11月20日（土）10:00～17:00

大津市市民活動センター 202・オンライン

vii ステップアップ講座

一般助成は3年まで継続が可能となっているが、組織基盤強化に取り組む団体に対して3年目終了後に、ステップアップ助成の枠組みがある。ステップアップ助成では環境保全活動と組織基盤強化を同時に取り組むことになるが、この組織基盤強化策をどのように構築するか、それを応募書類にどのように書きこむかなどについて説明し、事業企画の相談に応じるステップアップ講座を開催した。対象となる一般助成3年目団体に次年度の意向を確認して実施した。この講座を受講しなくてはステップアップ助成に応募できないことになっているため、まだ方針が固まっていない団体も参加している。また、自団体の組織運営のヒントになることから、応募は考えていない団体も参加可能とした。

2021年10月24日（日）13:30～16:00

草津市立市民交流プラザ 小会議室3 参加：7団体

viii 活動訪問

一般助成1年目団体の活動現場を訪問し、取材を行った。訪問した内容を写真と文章でホームページサイトに掲載して情報発信した。この訪問を通じて団体との関係性が構築できるとともに、活動内容だけではなく情報も収集できることで、以降の相談対応等に活かすことができている。

訪問団体数 16団体

ix 運営で工夫をしている団体への取材

夏原グラントの助成を受けて活動していた事業が、その後どのように展開されているか、また団体の組織運営はどのようになっているかなどについてヒアリングを行った。記事としてまとめ、ホームページに別ページを構築して掲載した。

取材先 NPO 法人プロジェクト保津川

x 活動報告書

団体の活動内容を取りまとめた報告書として、A4サイズで1000部作成。1事業あたりA4サイズの1/3スペースで、一般助成採択団体のすべての事業を掲載している。広報ツールとして応募を検討している団体などへの情報提供用として積極的に配布した。

xi 説明会・事前相談会

夏原グラントへの応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後には事前相談会を設定し、応募についての質問や相談に応じた。ファーストステップ団体には、積極的に参加を呼びかけた。コロナ拡大防止対策として、オンラインでも対応した。

- ・草津会場 2021年11月25日（木） 参加：1団体
- ・近江八幡会場 2021年12月4日（土） 参加：8団体
- ・京都会場 2021年12月7日（火） 参加：6団体
- ・南丹会場 2020年12月12日（日） 参加：3団体
- ・草津会場 2020年12月24日（金） 参加：1団体
- ・オンライン 計6団体

xii 2022年度助成にかかる準備

2022年度活動の対象となる助成事業の応募から選考にかかる一連の業務について、2021年度内に準備を進めた。xiの説明会・事前相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・事前相談会、応募受付、団体ヒアリング、選考会・公開プレゼンテーションなどである。

選考会・公開プレゼンテーションの日程は次の通り。

一般助成1年目

1次選考（書類選考）：2022年2月25日（金）16:00～19:30

2次選考（プレゼンテーション・選考委員会）：2022年3月19日（土）9:30～17:00

一般助成2年目

プレゼンテーション・選考委員会：2022年3月13日（日）9:30～16:30

団体ヒアリング日程は次の通り。

一般助成3年目団体対象：2022年2月18日（金）10:00～16:00

2022年2月19日（土）10:00～17:30

## ②生活協同組合コープしが できるコトづくり制度（受託事業）

一人ひとりが持つ「想い」や「願い」が結びつき、誰もが安心して暮らし続けることができる地域社会を実現していくための支援として創設された「できるコトづくり制度」の運営事務局を引き続き担った。

はじめて助成は2年間、活動助成は3年間の継続が可能であるが、2021年度はできるコトづくり制度が始まってから3回目の応募受付で、それぞれの助成枠が出そろった形となった。

講座は2021年度の経験を活かし、会場とオンラインでの開催を分けて実施した。それによって、会場は会場の、オンラインはオンラインのよさが出て、参加者の満足度も高かった。どちらかが選べることは、参加者のすそ野を広げることに通じていると感じた。また、それぞれの講座の様子を動画で保存して加工の上 YouTube で限定公開した。ホームページ上で希望者には URL を送信するとしたところ、閲覧希望が数名いた。これも新しい参加方法として広報していくことで、今まで参加できなかった・しなかった層への働きかけ方として活用することができることがわかった。

活動訪問とレポート作成・専用ホームページサイトへの公開、ホームページサイトの運営などについては引き続き実施し、2022年度に向けた助成金の募集・審査会運営、説明会、団体からの相談対応などを行った。

### i 2021年度採択団体

・はじめて助成 1年目 4団体

2年目 3団体 助成金総額 700,000円

・活動助成 1年目 3団体

2年目 3団体

3年目 2団体

助成金総額 2,370,000円

計 15団体 3,070,000円

審査にかかるプレゼンテーションは、5名の審査委員のうち2名がオンラインでの参加、3名が団体が発表する会場での審査となった。審査では公平性が重要であるため、映像・音響のトラブルがないよう、また質疑応答がスムーズに行えるよう、外部から当日の機器類設置やアクセス、誘導など技術的なサポートをお願いした。

2021年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

<はじめて助成>

1年目

団 体 名	事 業 名	助成額
えくぼ自然クラブ	水を知ろう！水で遊ぼう！	100,000
TERA コミュニティー鳥羽上	地域学童保育と集いの場	100,000
ママミーティング部	ママミーティング部	100,000
ぷらっとカフェコンサートプロジェクト	地域によりそう芸術	100,000

2年目

団 体 名	事 業 名	助成額
みんなのもうひとつのおうち「キュルア」	みんなのもうひとつのおうち「キュルア」	100,000
楽楽ひろば	世代を超えたつながりを通して、成長と元気をつくる楽楽ひろば	100,000
くさつ Farmer's Market 実行委員会	くさつ Farmer's Market で作る未来プロジェクト	100,000

<活動助成>

1年目

団 体 名	事 業 名	助成額
若者自立支援ボランティアGroup居場所の会「レリーフ」	社会参加を模索する若者への支援活動	300,000
地球ハートヴィレッジ	地球を愛する衣食住DIY生きる学び塾	300,000
特定非営利活動法人 Mom's fun	本でつながるこそだて応援事業	300,000

2年目

団 体 名	事 業 名	助成額
ぼてじゃこトラスト	滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ、楽しく遊び、学ぶ親子自然体験教室	300,000
特定非営利活動法人 カズン	地域のつながりで食品ロスを減らす	270,000
一般社団法人 やす地域共生社会推進協会	買い物難民・サービス難民を救う！「おたのみやす」の発行	300,000

3年目

団 体 名	事 業 名	助成額
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	山門水源の森保全活動環境改善事業	300,000
NORA	NORA（ノーラ）	300,000

ii スタート集会

2020年度は実施できなかったスタート集会をオンラインで開催した。全団体オンライン参加とし、事務局はコープしが野洲本部から接続した。全体スケジュールや活動を始めるにあたっての注意点などについて説明し、その後各団体から団体の自己紹介と取り組む活動について紹介をもらった。



1 団体から複数の参加もあり、限られた時間ではあったが、それぞれの活動を知る場となり、有益であった。

2021年4月24日（土）10：00～12：00 参加者20名

### iii 講座

「こんな活動があれば暮らしやすいのに」「困っている人をみんなで支えたい」「自分や仲間の力を地域で活かしたい」など活動への関心を寄せている方々を対象に、社会の現状と課題や活動への取り組み方法などについて考える場として開催した。2020年度から内容をリニューアルして、新たに活動資金について学ぶ回を設けた。会場とオンライン開催を分けて設定したため参加者が分散した可能性もあるが、参加の選択肢が増えたということでは意義があった。第1回は会場を予定していたが、コロナ感染状況を鑑みオンラインのみの開催となった。

講座の様子を動画で撮影して加工の上、YouTubeで限定公開した。ホームページで希望者にURLを送信すると掲載したところ、複数名の希望があった。

#### 第1回：「団体の立ち上げ方、活動の始め方」

2021年9月10日（金） オンライン 参加者11名

2021年9月23日（木） オンライン 参加者5名

2021年10月2日（土） オンライン 参加者7名

動画再生回数 22回

#### 第2回：「活動資金を確保するために」

2021年10月9日（土） オンライン 参加者6名

2021年10月15日（土） オンライン 参加者7名

2021年10月30日（土） 会場 参加者6名

動画再生回数 9回

#### 第3回：「『やってみたい』から『やれる』へ！」

2020年10月8日（土） ひこね燦パレス 参加者9名

2020年10月15日（金） コープしが野洲本部 参加者4名

動画再生回数 8回

それぞれの回でのアンケートで「今できること、土台をしっかりと固めて、アフターコロナのチャンスをつかめるように地道な活動をしておくことが大切だと感じた」「活動を始める・継続させるための資金についての考え方がわかり、とても勉強になった」「『やりたいこと』がぼんやりしていたが、実際に1つ1つ書いていくことでより明確になり、次への方向性がはっきりしてきたように思う」などの感想が寄せられた。

### iii 活動訪問

採択された団体を訪問し、活動について取材を行った。それをまとめ、専用ホームページサイトに掲載した。

### iv 説明会・相談会

応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後の相談会では応募にかかる質問や相談に応じた。会場での開催と、日時を指定してその中から自由に選べるオンラインによる相談を行った。オンライン参加者の満足度は高く、今後の相談会・説明会の実施方法についてヒントが得られた。

#### 会場開催

第1回：2021年11月16日（火）ひこね燦パレス 参加3団体

第2回：2021年11月23日（火・祝）コープしが本部 参加2団体

第3回：2021年12月14日（火）草津理室市民総合交流センター 参加4団体

#### オンライン開催

第2回：2021年11月22日（月）参加2団体

\*第1回は申し込みがなかったため開催せず

#### 個別相談対応

団体名・個人名がわかる相談 8件 団体名・個人名が不明な相談 5件

#### v 専用ホームページサイトの運営

団体訪問の取材記事、講座や助成金情報を掲載して広報を行った。講座の動画映像のお知らせは2020年度も掲載したが反応はなかったところ、今年は39回の再生を数えた。ホームページサイトの周知も広まっているのではないかと感じる。

#### vi 2022年度助成にかかる準備

2022年度活動の対象となる応募から審査について、2021年度内に準備を進めた。ivの説明会・相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・相談会、応募受付、プレゼンテーション・審査会などである。

審査会は2022年2月27日（日）に開催した。当初は会場での実施を予定していたが、コロナ感染状況を考慮して、審査員全員がオンライン参加、プレゼンテーション団体は会場での報告というスタイルで実施した。コープしが野洲本部でのオンライン発信にかかる設備の充実と技術が格段と上がっていることから、スムーズな運営であった。

### ③大和リース まちづくりスポット大津

大和リース（株）が商業施設を建設・運営する「ランチ大津京」内に全国で展開している「まちづくりスポット」だが、2020年10月に新法人「まちづくりスポット大津」が立ち上がったので、2021年度はアドバイザーという形で支援を行った。

まちづくりスポット大津への支援内容は主に次のとおりである。

- ・「わかばサロン」における相談対応
- ・主催する講座・ワークショップなどでの助言
- ・事業の企画アドバイス、および実施時の支援
- ・組織課題に対する、県内・全国事例や関連資料の提示説明。
- ・経理・労務などに対する支援
- ・多忙時におけるハッシュタグ運営の人員サポート など

NPO法人「まちづくりスポット大津」の組織が確立されているので、しがNPOセンターが培ってきた専門的な知見・スキルを提供する立ち位置となった。スタッフ研修も計画したかったが、日常業務でスタッフに余裕がないため、2022年度に実施する予定である。スタッフが「今やっていること」の意味や価値に気づくようなアドバイスを心がけてきた。

大和リースとは、毎月で行っている定例会議にアドバイザーとして参加し、情報を共有した。

### (3) 第6回都道府県、主要都市におけるNPOとの協働環境に関する調査

岡山NPOセンターが主催して取り組んだ「第6回協働環境調査」に協力して、2021年3月に滋賀県及び草津市にヒアリングを行いながら集計シートに記述し両自治体に確認をしてもらった。大津市からはヒアリングを含め拒否されたため、当センターがホームページで確認したデータで報告した。調査のまとめは、当初予定を大幅に遅れ、2021年12月に最終完成して、報告会も行われた。

なお、報告書はしがNPOセンターのサイトから購入の申し込みができる。

### (4) 役員・職員が関わる委員会等

しがNPOセンターとして組織的に取り組んでいるものではないが、役員や職員が行政・団体の委員会の委員等に次のとおり出席・出講した。

- ・ 滋賀県デジタルを活用した地域課題解決事例選「コロナに負けない地域×ICT事例コンテスト」 審査員  
開催1回
- ・ ひとまちキラリまちづくり活動助成審査会（公益財団法人草津市コミュニティ事業団） 副審査員長  
開催1回
  
- ・ 栗東市協働事業提案審査委員会 委員長・委員 開催1回
- ・ 守山市市民提案型まちづくり支援事業審査委員会 委員長 開催1回
- ・ 事業指定寄付制度にじまちサポーターズ（まちづくりネット東近江） 選考委員 開催2回
- ・ 同志社大学大学院「地域力再生実践論研究」 講師 開催3回
- ・ 滋賀県レイカディア大学 講師 開催2回（草津校、米原校）
- ・ 生活協同組合コープしが第1回コープしがカレッジ 講師 開催1回
- ・ 「栗東市元気創造まちづくり事業」サポート講座 ワークショップ講師 開催1回
- ・ 滋賀コミュニティテックフォーラム2022（滋賀県地域情報化推進会議）報告 開催1回
- ・ 公益財団法人滋賀県市町村振興協会懇話会 委員 開催2回
- ・ 草津市景観審議会 委員 開催1回
- ・ 栗東市市民参画等推進委員会 委員 開催2回
- ・ 守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議 副委員長 開催3回
- ・ 東近江市景観審議会 委員 開催1回
- ・ 東近江市文化財保存活用地域計画協議会 委員 開催2回
- ・ 彦根市福祉保健部・子ども未来部指定管理者候補者選定委員会 委員 開催2回
- ・ 長浜市市民協働推進会議委員 副委員長 開催 開催1回

### (1) コラム発信

2013年6月より、NPOを取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、HPサイトでコラムとして発信している。2021年度は1か月に1回、計12回リリースした。

2021年4月 ムダの大切さ

5月 政府・自治体のコロナ対応はおかしくないか

6月 オリンピックは即刻中止決断すべきだ

7月 災害支援市民ネットワークしがの活動から

8月 格差がまかりとおる社会に対抗

9月 衆議院の解散

10月 政策をチェックする市民力

11月 これからの日本を考える上で

12月 経済至上主義に代わるものは

2022年1月 新書のすすめ

2月 統計不正

3月 民主主義の危機か

## 5 災害ボランティアコーディネート事業

### (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営

#### ① 「災害支援市民ネットワークしが」

滋賀における市民の災害対応力を高め、行政や社会福祉協議会等と連携しながら、災害発生時のボランティア派遣、ボランティアセンター運営支援、ボランティアコーディネート等の災害支援活動、平時における防災活動の啓発などを行うネットワークである。このネットワークに参加することで、災害時に互いに声を掛け合うことができる関係を築くことも大きな目的である。県内外での災害時に、災害ボランティアセンター運営支援やコーディネート、独自の情報発信などができることを目指し、2013年度にネットワークを構築し、しがNPOセンターが事務局を担っている。

会員組織としてはいるが会費は設定せず、オブザーバーなどの参加もある。研究会・セミナー等へは会員外にも声をかけるオープンな形態としている。2021年度当初の会員は、団体会員：15団体、個人会員：57人であった。

総会日時 2021年5月26日（水）13：30～14：30

開催場所 草津市立まちづくりセンター309会議室 参加者：16名

総会終了後には、近年の被災地支援についての情報を提供してもらい、その後参加者で自由に意見交換する場を設けた。災害支援市民ネットワークしがの今後の取組やこのネットワークを広げていくためにどうすればいいかなど、活発な意見が出された。

#### ②研究会

災害支援市民ネットワークしがが主催する研究会として、テーマを設定し開催している。2021年度のテーマは、災害時に発生するさまざまな問題に対し多方面な角度から、その専門家の取り組みを聞く場となった、それぞれのテーマに対する関心は高く、講師の話には貴重な情報もあり、今度の研究会のテーマにつなげることができそうなこともあった、ただし専門的な面が前に出すぎると、関連性が見いだせない場合もあると感じたので、今後は広報時に注意を払っていきたい。

i 第1回：2021年6月21日（月）13：30～16：00 参加者：16名

「災害に備えてBCP（事業継続計画）をつくってみよう」

講師：後藤至功さん（佛教大学福祉教育開発センター講師）

「感染症・災害」に関するBCP（事業継続計画）策定が、2021年度に介護報酬改定の中で介護施設・事業所に義務化されることとなった。災害発生時に施設ではどのようなことが起こるのかを多様な視点から考えるワークを行い、あらゆる状況を想定して対処していくことの難しさを体感した。それを踏まえて、発災時の災害対策計画を作成する時のポイントや注意点について学んだ。みんなの知恵や力を集めることが大事で、そのためにも近隣との連携や外部との連携が必須とのアドバイスがあった。連携先については各事業所が把握しているわけではないので、地元の災害の中間支援がサポートすることに大きな意味がある。

ii 第2回：2021年8月26日（木）13：30～16：00 参加者：会場10名・オンライン9名

「災害ボランティアセンターへの中間支援組織の関わりを考える」

講師：園崎秀治さん（前全国社会福祉協議会）

災害復旧期には外部からの支援が大きく、緊急性を要する際には地域にも思い切った「受援力」が必要だが、災害時には平常時バイヤスも働き、特に今はコロナ禍もあって外部の人が入

れなくなる場合も生じている。社協が災害ボラセンを立ち上げる際に、行政との連携がうまく行かないところも多いので、動き方や役割分担などをしっかり見直すほうがよい。これからは ICT の便利なツールを使い、外部支援者の力をうまく借りることが大切で、NPO はそれぞれの専門性を活かし災害ボラセンの運営を一緒に支えるという考え方が必要。

iii 第3回：2021年10月28日（木）13：30～16：00 参加者：11名

「法律家から見た被災者支援」

講師：津久井進さん（弁護士法人芦屋西宮市民法律事務所）

被災者の個別の状況を把握しそれに合わせた支援策を組み合わせることが大切だが、現在は世帯単位や地域への支援のしくみはあっても個人の支援のしくみは乏しいため、困っている人に必要な手が届いていない現状がある。家族単位の制度が多い中、家族にヒアリングをすると考え方やしてほしいことがみんな違うのがわかるので、一人一人の話を聞き、支援策につながるしくみが重要である。被災者を自分たちだけにさせず、多くの人や組織がよってたかって連携し支援することで救えることも多い。

iv 第4回：2021年12月10日（金）13：30～16：00 参加者：22名

「新たな災害ボラセンの運営方法」

講師：講師：石井布紀子さん（NPO法人さくらネット 代表理事）

コロナでボランティア募集を県内に限る市町が多い状況の中、受付やマッチングについても試行錯誤の数年間だった。コロナ禍であっても救える可能性は消さないのが災害ボランティアセンター。リスクのひとつに災害ボランティアセンターの受付が密になることがある。これを解消するために数年間かけて社会実験したところ、場所の分散が有効だとわかり、google foam 等を使って集合場所を分けて受け付けた。これは事前に必要な人数がわかるので、個人のマッチングだけでなく、エリアマッチング・コミュニティマッチングにも使え、マッチングの質も上がることがわかった。ドライブスルー方式、これは車の中で受けつける方法。全社協はスマホで保険受付ができようにしたので、長蛇の列がなくなった。外部スタッフは他地域の経験も豊富で「先読み」のプロ、地元は現場の人の状況を知っている。この役割分担も頭に置いておいてほしい。

## (2) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

### ① 災害支援市民ネットワークしが研究会（再掲）

5-(1)-②の研究会のうち、i-第1回研究会、ii-第2回研究会、iii-第3回研究会、iv-第4回研究会を、近畿ろうきんパートナーシップ制度の枠組みで実施した。

### 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

近畿ろうきんが2000年度から始めた近畿2府4県内でのNPO・ボランティア活動を促すための制度。

2011年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れていたものの、年月が経過する中現地支援からは軸足が遠のいていた。しかしながら2016年4月に発生した熊本地震を機に、現地支援の必要性から再度復興支援活動に取り組むこととなった。2018年度からはSDGsに関わり「誰もおいてきぼりにせえへん」をテーマに掲げて事業を進めている。

## ②共通企画

近畿2府4県のNPO支援センターと近畿ろうきんが共同で事業に取り組むもの。2021年度のNPOパートナーシップ制度で取り組んできた「コロナ禍の課題に対応するNPOの支援活動」およびコロナ禍での「居場所づくりへの支援活動」「防災・減災の取組み」を、より深めて共有する内容で実施した。コロナ禍で厳しい状況にある団体と連携しながら活動している中間支援組織が、市民活動の役割を改めて認識し、活動へつなげていくために必要なことについて考える場としてシンポジウムを開催した。開催はオンラインで行った。

シンポジウム「withコロナの社会における市民活動の役割を考える」

2022年2月11日（金・祝）14:00～16:10（オンライン）

### i 基調講演

「コロナ禍で変わる連帯の形とNPOの役割」

桜井政成さん（立命館大学 政策科学部教授）

### ii NPOパートナーシップ制度活動報告

コロナ禍での気候変動対策の取組み 奈良ストップ温暖化の会

コロナ禍での障害者支援・介護離職防止の取組み シンフォニー

### iii クロストーク

「withコロナの社会における市民活動の役割を考える」

登壇者：わかやまNPOセンター、CS神戸、桜井政成さん

進行：大阪ボランティア協会

## (3) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

### ①運営協議会会議

第1回 日時：2021年6月16日（水）14:00～15:30

方法：ZOOM開催

### ②災害ボランティアセンター機動運営訓練

滋賀県総合防災訓練中止に伴い中止

## (4) JVOADが実施した「企業の被災者支援への参加に関する調査プロジェクト」への協力

このプロジェクトは、企業と行政との協定を調査し、その特徴や傾向をまとめることで、企業の更なる被災者支援への参画を促すことを目的としたもので、当センターへの協力を要請された。

滋賀県防災危機管理センター、滋賀県健康福祉政策課に災害協定についてのヒアリングを行い、合わせて協定を締結している企業2社（株式会社平和堂、中島商事株式会社）を紹介してもらった。

2021年5月20日（水） 滋賀県ヒアリング

2021年6月4日（金） 中島商事株式会社ヒアリング

2021年6月9日（水） 株式会社平和堂ヒアリング

## (5) 連合滋賀災害ボランティアチーム研修

連合滋賀が災害支援のために組合員に呼びかけ組織している災害ボランティアチームの研修会で講師を務めた。

- 第1回 2022年9月29日(木) 18:30~20:30  
会場：ライズヴィル都賀山(オンライン併用)  
テーマ：災害ボランティア1 基礎編
- 第2回 2022年11月24日(水) 18:30~20:30  
会場：ライズヴィル都賀山(オンライン併用)  
テーマ：災害ボランティア2 実践編

#### (6) レイカディア大学 講義

滋賀県社会福祉協議会が主催するレイカディア大学より、「クロスロードゲーム」または「避難所運営ゲーム」の講義について講師依頼があった。「クロスロードゲーム」を実施するということで講師を務めた。米原校と草津校の両校で同じ内容で実施した。

草津校：2021年7月9日(金) 13:00~15:00

米原校：2021年6月3日(木) 13:00~15:00



## 6 ネットワークの構築

### (1) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

「近畿圏 NPO 支援センター連絡会議」に出席

2021 年 6 月 11 日（金）オンライン

2021 年 9 月 24 日（金）オンライン

2021 年 12 月 2 日（木）近畿労働金庫

2022 年 3 月 10 日（木）オンライン

### (2) 中間支援センター意見交換会

県内の中間支援団体で組織する意見交換会に参加した。2021 年度は世話役として、淡海ネットワークセンター（第 1 回担当）、ながはま市民活動センター（第 3 回担当）とともに第 2 回を担当し、内容の企画と当日の運営を行った。

① 2021 年 9 月 10 日 zoom 開催

テーマ：寄付のオンライン化について

くさつ未来プロジェクトの堀江尚子さんによる、オンライン決算システム コングラントの紹介

その他

各センターの情報交換

参加：幡

②2021 年 11 月 24 日（水） 会場：まちづくりスポット大津 シェアスペース

テーマ：1. まちづくりスポット大津の紹介 組織と事業説明・施設見学

マネージャー 馬場環さん 白井恭子さん

2. 相談業務のスキルアップワークショップ

株式会社ひとまち 認定講師（マスター） 西川実佐子

各センターの情報交換

進行：幡

③2022 年 2 月 16 日（水）

テーマ：zoom による研修会と意見交換

講師 明石コミュニティ創造協会 マネージャー 木上裕貴さん

各センターの情報交換

参加：仲野、幡

## 7 会議等の開催

### (1) 総会

2021年5月22日（土）13：30～14：30 ハッシュタグ大津京・オンライン（Zoom）併用

コロナ拡大防止の観点から、また前年度のオンライン実施で遠方からの参加があったことを受けて。会場とオンライン参加の併用で実施した。まだまだ接続のための機器類設置や進行を工夫する必要があるが、オンライン参加の併用は参加者増に貢献できると感じた。

会場参加8名 オンライン参加7名

### (2) 理事会

第42回 2021年5月13日（木）

第43回 2021年7月1日（木）

第44回 2021年10月22日（金）

第45回 2022年1月8日（土）

第46回 2022年3月22日（火）

2021年度は基本会場開催としつつ、コロナ感染状況や理事の希望に合わせてオンラインでの参加も可とする柔軟な形で運営した。対面での議論が望ましいとの声はあるものの、時間と場所の自由度が高いことから出席できる場合もあり、今後も状況を見ながらオンラインにも対応して開催していきたい。